

地域教育文化学部 地域教育文化学科 異文化交流コース 2年 松田 比奈

派遣先大学：ガジャマダ大学（インドネシア）

派遣期間：2016年3月9日～3月22日



1. 日本語教室での指導内容

私が着いたときには、すでに2名の山形大生がいたため、最初の1週間は3人で日本語クラスを運営しました。UGM日本語クラスは、UGMの学生だけでなく、近くの別の大学に通う学生や高校生、すでに社会人として働いている人なども来るような、非常にオープンな空間でした。しかし、どのくらいのレベルの人が何人来るか、当日になってみなければわからず、またインドネシアは比較的時間にルーズで、授業が始まってからどんどん人が増えていったので、その場にいる人数やレベルに合わせて授業内容を決めて進めていかなければなりませんでした。前日に考えた授業がまったくできないことも何度もありましたが、臨機応変に対応する力は身についたと思います。日本人が3人いたときには、ビギナーの人（ひながらからスタート）がいたらそちらに1人がいき、残りの2人でアドバンスの授業をする、と分担して授業をしました。後半、私が1人になってからは、ビギナーの人の授業をしているときはアドバンスの人には作文を書いてもらい、ビギナーの授業が一段落したらビギナーの人には復習タイムとして教えたことを確認する時間をとり、そのあいだ私はアドバンスの人が書いた作文を添削する、というような授業にしました。アドバンスの授業は、基本的に説明も日本語で行いました。私はあまり英語が得意ではなかったもので、ビギナーの授業はコミュニケーションを取るのに少し苦労しましたが、ひながなやカタカナを教えるときは、書き順に注意して教えました。午前中の授業はあまり人が来なかったもので、会話の練習をすることが多かったのです。その日のテーマを1つ決めて、あとは自由に会話をしました。このとき、私は学生からインドネシアのことやイスラム教について多くのことを教えてもらいました。UGM日本語クラスには日本語を話す能力が高い人がたくさんいて、日常会話が簡単にできるレベルの人が何人もいました。しかし、普段漢字を使わない彼らにとって漢字はかなり難しいらしく、日本語の読み書きが弱いように感じました。そこで、授業では漢字を教えたこともありました。日常的によく目にする動詞の漢字や動物の名前、形容詞などを教えました。また、授業ではゲームも取り入れて楽しい時間になるように心がけました。しりとりやビンゴゲーム、早口言葉、かるたをしました。また、1人になってからは授業で音楽も使いました。事前に穴埋めの歌詞プリントをつくって、授業のときに教室で曲を流し、意味を考えながら歌詞を書きとってもらいました。曲を選ぶときに気をつけたのは、なるべく歌詞が聞き取りやすく、かつ難しい言い回しがなく分かりやすい歌詞の曲であることです。少しテンポを落としたり3回4回と流せば、ローマ字混じりではあったものの、みんなほぼ完璧に歌詞を書きとっていたので驚きました。答え合わせをした後に、歌詞の説明をつけ加えたり、漢字で書ける部分の漢字を教えたり、最後にはみんなで歌ったりもして、いい授業ができたと思います。



2. 日本語教室以外での現地での交流

インドネシアにいた2週間、お昼ごはんや夜ごはんのときはもちろん、授業がない日にも必ず日本語クラスの子たちが一緒にいてくれました。「何を食べたい?」「どこに行きたい?」と何度も聞いてくれました。本当に毎日が楽しく、あたたかく迎えてもらって嬉しかったです。インドネシアで過ごす最後の日曜日は、私の20歳の誕生日でもありました。朝からサプライズで起こされて誕生日のごちそうを作ってもらって来てくれた子たちがいました。夜にも、ゲストハウスに戻ると10名くらいが待っていてくれて、ケーキも準備してくれてサプライズでパーティーをしてもらいました。一生忘れられない思い出です。また、山大との架け橋になってくれているアカマディ先生には、お知り合いの結婚式にも連れて行ってもらいました。イスラム教式の結婚式は、日本のものとは全



く違って、とても貴重な経験ができました。

3. プログラムに参加した感想

昨年に続いて、学生大使として海外サテライトに行くのは二度目でした。昨年は中国の延辺大学へ行きましたが、延辺大学では日本語学科の学生に授業をしたのに対して、UGMでは誰でも参加できる自由なクラスだったため、授業の空気が全然違っていました。クラスに来てくれる人のレベルや人数が毎日変わり、その日行ってみないとわからないという状況は、授業の準備は大変でしたが、今まで自分が勉強してきたことをフル活用して臨機応変に対応することができたと思うのでよかったです。また、今回訪れたインドネシアが私にとって初めての東南アジアで、気温も人もあたたかく、適度にゆるく(時間にもルーズ)、物価も安いので、とても暮らしやすかったです。イスラム教徒が9割近くいる国であるということ、渡航前にはテロや地震もあったので、正直行く前は楽しみの気持ちよりも不安が大きかったです。しかし、サマプロで出会った友人や日本語クラスの仲間たちがとてもよくしてくれたので、インドネシアにいた2週間で危ない目にあたり、怖い思いをしたことは一度もありませんでした。また、イスラム教に対する私のイメージも大きく変わりました。イスラム教を誤解している人が周りにはたくさんいるので、今回私が学んできたことをこれから多くの人に話して、イスラム教徒への理解が進み、日本が異文化をもつ人々にとって過ごしやすい国になっていけばいいなと思いました。そして、日本語クラスに来てくれる子たちと接していると、日本文化や日本語が好きな気持ちをととても感じました。休日にカラオケに行ったときには、約3時間全て日本の曲を歌って

れました。最後の日曜日には日本アニメのコスプレイベントにも連れて行ってもらい、遠く離れたインドネシアで日本文化が多くの人に親しまれていることに驚き、嬉しく思いました。

大学生活もちょうど折り返しとなるこの時期にインドネシアへ行けて本当によかったと思っています。自分の目でさまざまな世界を見ること、実際に行ってみて現地の人と交流する大切さを再認識しました。私は日本語を教えに行きましたが、まちがいなく私の方が多くのことを勉強させてもらったと思っています。ガジャマダ大学の方や授業に来てくれた皆には本当に感謝しています。今後このような交流がもっと盛んになって、お互いに理解が進んでいけば嬉しいです。

4. 自分の目標の達成度や努力した経緯など

インドネシアへ行くにあたって、立てた目標は次の4つです。1つ目は、自分の専門である「異文化」の重要な要素の宗教（今回は特にイスラム教）について学ぶこと。2つ目は、サマプロのときに、宗教上の理由からUGMの子がコンビニで昼食を買う際におにぎりしか食べられるものがなかったことから「この人たちは普段何を食べているのか」という疑問を解決すること。3つ目は、自分にしかできない授業をすること。4つ目は、友達をたくさん作ることでした。

1つ目に関しての達成度は、80%です。渡航前の私が知っていたイスラム教は、1日に5回お祈りをして、豚肉とアルコールは口にせず、断食があり、女の人はスカーフをしている、という程度のものでしたが、今回実際にイスラム教徒の生活を見て、話をしたことで、イスラム教徒と一言でいっても人によって信仰の度合いや規律が大きく異なることがわかりました。また、普段日本で生活していると宗教を意識することはほとんどありませんが、インドネシアでは宗教と生活が密接に結びついていて、いかに宗教が大切であるかを感じました。大学にあった一番大きなモスクに連れて行って、実際にお祈りしているところも見せてもらい、日本では絶対にできない経験ができました。しかし、たったの2週間でイスラム教について理解できたかと言えばそうではないので今回は80%です。2つ目、3つ目、4つ目に関しての達成度は100%です。イスラム教徒の食事について「あれ、意外と普通…」と率直に感じました。豚肉を食べないため、お肉は鶏肉や牛肉、ヤギ肉などがありましたが、魚や野菜、果物も多く食べているし、日本であそこまで食べられるものがなかった理由がわからなくなるほど普通の食事でした。また、インドネシアの食事は、食べ物は激辛で飲み物が激甘でした。暑い中で汗をかきながら辛いものを食べる文化はあまり理解できませんでしたが、辛いものが好きな私にとってインドネシアの食事はとても口に合っていました。授業では、本当にみんな日本語が上手だったので、最初は「こんなに日本語がうまい人たちに、日本語教育のプロでもない私が教えられることは何だろう…」と少し悩んだりもしましたが、私の強みといえば日本語のネイティブスピーカーであることと生徒と年齢が近いことだけでした。そこで、私はなるべく会話練習を多くできるような授業をしたり、みんなが興味があると言ってくれた若者言葉や日本の音楽などを授業で扱いました。前回の学生大使の経験も活かしながら「自分にしかできない授業」ができたと思います。2週間で友達もたくさんできたので、目標は大方達成できました！

5. 今後の展望

自分の専門でもある異文化への理解を今後ますます深めるために、これからも自分の足でどんどん新しい国や地域へ赴き、人々と交流することで自分の視野を広げていきたいです。そして同時に、自分の国を客観的に見る力や、日本文化や日本の良さを発信できる力、コミュニケーション能力を高めたいと思います。